

令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	94	54	45	5.5	7.4
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	497
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	107	66.1	53.3	57.1	44.7	51.8	5.8	4.9	9.3	8.4	6.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語> 平均正答率(%)では、全国平均と比較して0.3ポイント下回り、大阪市平均を2ポイント上回っている。

平均無回答率(%)では、全国平均を1.2ポイント、大阪市平均を1.3ポイント下回った。

学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方にに関する事項」では、全国平均を0.3ポイント、大阪府平均を0.6ポイント上回っている。

A 話すこと・聞くことにおいて、全国平均を2.7ポイント、大阪府平均を0.2下回っている。

B 書くことにおいて、全国平均を0.2ポイント、大阪府平均を2.5ポイント上回っている

C 読むことにおいて、全国平均を1.9ポイント、大阪府平均を3ポイント上回っている。

<数学> 平均正答率(%)では、全国平均を3.3ポイント、大阪市平均を1ポイント下回っている。

平均無回答率(%)では、全国平均を3.2ポイント、大阪市平均を3.8ポイント下回っている。

「学習指導要領の領域」

A数と式において、全国平均を3.5ポイント、大阪府平均を2.4ポイント下回っている。

B図形において、全国平均を3.4ポイント、大阪府平均を3.1ポイント下回っている。

C関数において、全国平均を3.2ポイント、大阪府平均を1.3ポイント下回っている。

Dデータの活用において、全国平均を2.9ポイント下回り、大阪府平均を0.8ポイント上回っている。

<理科>

平均正答数では2.8/6で、全国平均正答率を0.1ポイント下回ったが、大阪への平均率では、0.1ポイント上回った。平均IRTスコアについても平野北497、大阪府487、全国503となり、大阪府以上全国以下の値となった。IRT集計値の分布をみると、2と5がそれぞれ全国平均値よりも値が大きく、1と4が小さくなかった。

【今後に向けて】

<国語>文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られた。物語全体の構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

<数学>平均正答率において、全国・大阪市に比べて低い結果となっている。図形の分野の力が低いので、視覚に訴える教材・教具の作成にさらに力を入れる必要がある。数と式の分野についても少し下回っているので、もう一度計算問題が確実にできているか確かめていきたい。また、習熟度の差が大きいことが今回の調査でも明らかになったので、ペアワークやグループワークの活用を更に進めていきたい。

<理科>今回の全国学力学習状況調査はタブレット端末を使用して行われた。普段から各教科で学習に使用していることから、端末の操作に戸惑う生徒は少なかった。平野北中学校の無回答率の低さからも読み取れるが、受検した生徒たちはみな、よく考え最後までしっかり取り組めたことがわかる。ただし、論理立てで物事を考えたり、予想をたて、結果を考察する力が弱い傾向がある。このような力を身につけさせていきたい。自分自身の考えを持つことと、それを表現することに課題が見られた。普段から発表など他者の意見を聞き、生徒一人一人が自身の学習を振り返ることで自身の考えを表現する学習場面を設定するなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をしていくことが重要である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

・国語

平均点は大阪府と比較して、+1.9ポイント上回っており、基礎的な読解力や表現力の定着が成果として表れた。

・社会

平均点は大阪府と比較して、+2.1ポイント上回っており、基礎的な知識理解が定着している。

・数学

平均点は大阪府と比較して、+3.2ポイント上回っており、基礎的な計算力や問題解決への取り組みが成果として表れている。

・理科

平均点は大阪府と比較して、-1.3ポイント下回っており、観察・実験をもとに考えをまとめる学習の充実が求められる。

・英語

平均点は大阪府と比較して、-1.4ポイント下回っており、語彙や文法を活用して自分の考えを表現する力に課題がみられる。

<課題>

・国語科において、言葉の特徴や使い方にに関する事項の正答率が低く、語句の意味や表現の効果を捉え、適切に使う力に課題がみられる。今後は、語彙の理解を深めるとともに、学んだ表現を実際に活用する学習の充実が必要である。

・社会科において、思考・判断・表現に関する設問の正答率が低く、資料や統計を基に事象を多面的に捉え、自分の考えに根拠をもって説明する力に課題がみられる。今後は、資料活用や言語活動を通して、考えを整理し表現する学習の充実が必要である。

・数学科において、関数に関する設問の正答率が低く、数量の関係を表や式、グラフで捉え、変化の様子を考察する力に課題がみられる。今後は、具体的な事象と関数を結び付けて考える学習を充実させ、理解の定着を図る必要がある。

・理科において、思考・判断・表現に関する設問の正答率が低く、観察や実験の結果を基に、事象を科学的に観察し、根拠を持って説明する力に課題がみられる。今後は、結果の整理や考察を言語化する活動を充実させる必要がある。

・英語科において、知識・技能及び思考・判断・表現に関する設問の正答率が低く、語彙や文法の定着と、それらを活用して自分の考えを表現する力に課題がみられる。今後は、基礎的な語彙、文法の定着を図りつつ、活用を意識した言語活動を通して、表現力の向上を図る。

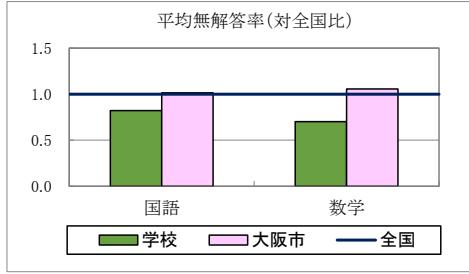
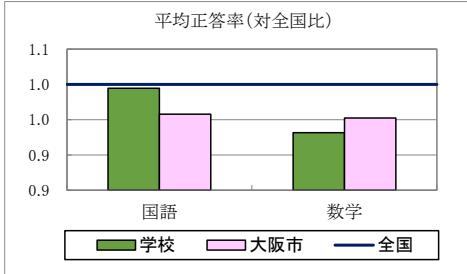
**令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	54	45
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

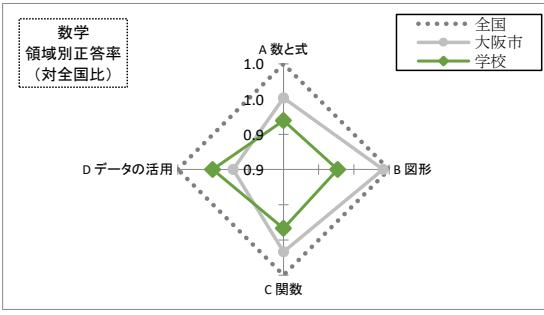
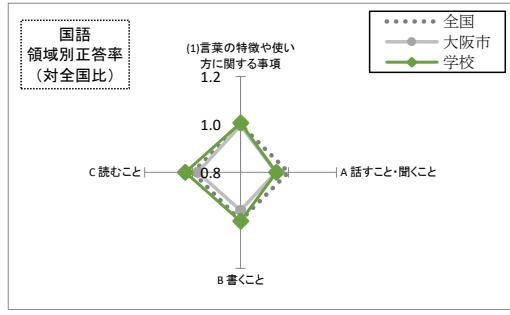
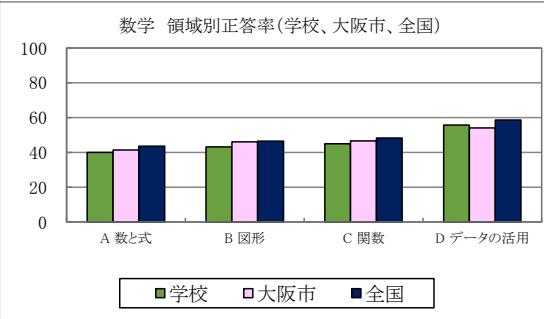
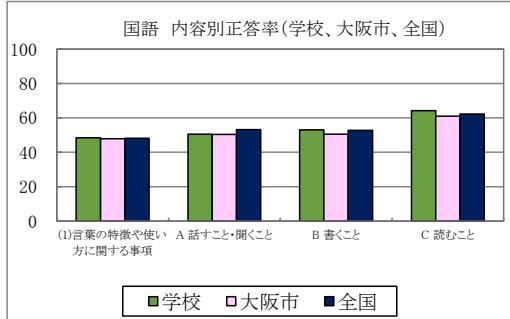
平均無解答率(%)	
国語	数学
5.5	7.4
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	48.4	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	50.5	50.4	53.2
B 書くこと	5	53.0	50.6	52.8
C 読むこと	3	64.2	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	40.0	41.4	43.5
B 図形	4	43.1	46.1	46.5
C 関数	3	45.0	46.6	48.2
D データの活用	3	55.7	54.0	58.6

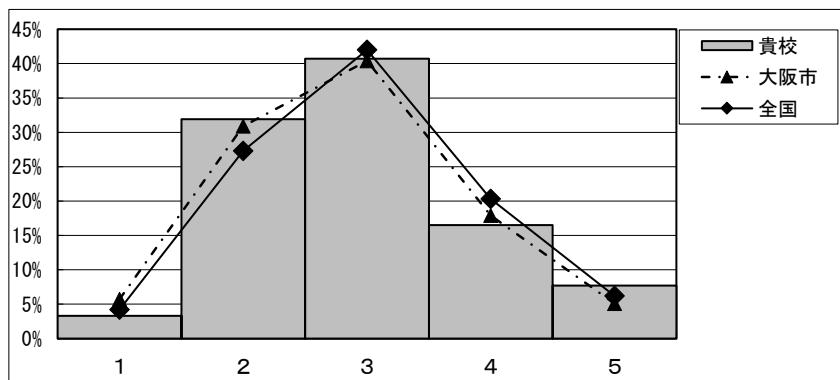
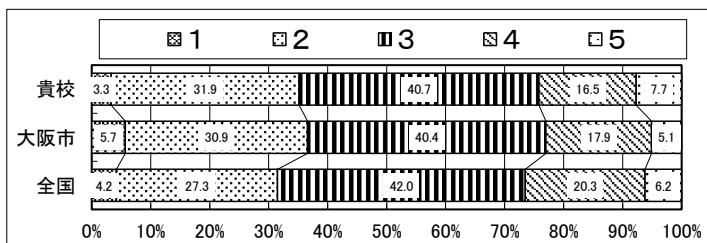


令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	497
大阪市	489
全国	503



令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

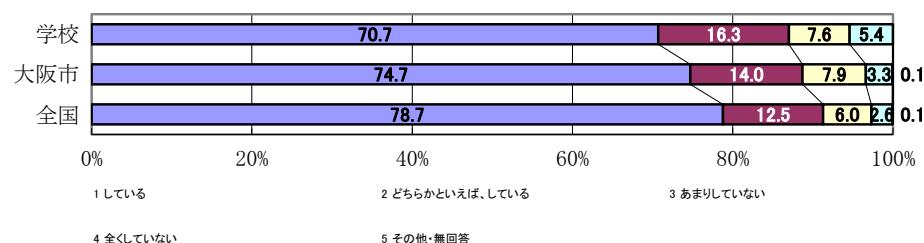
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

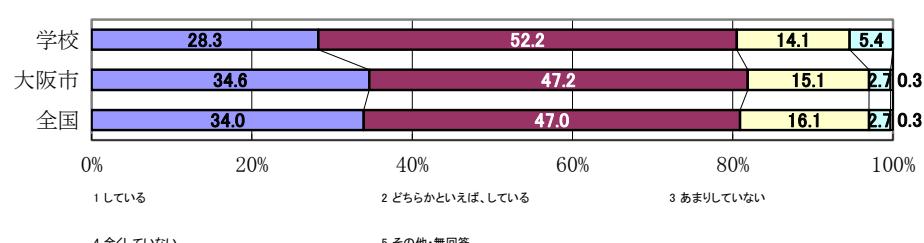
1

朝食を毎日食べていますか



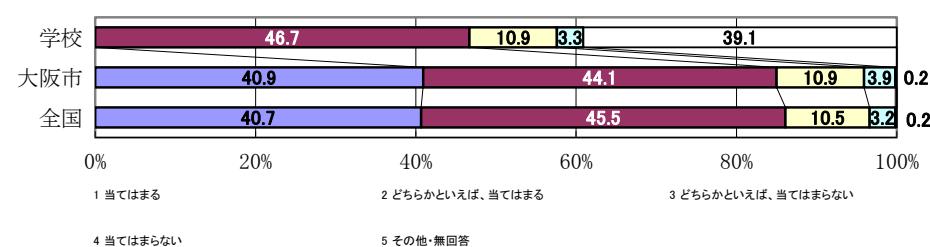
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



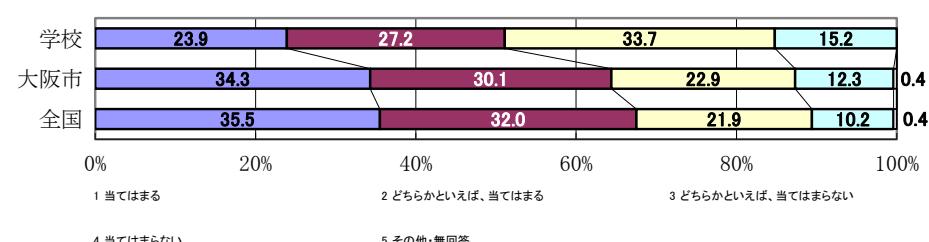
5

自分には、よいところがあると思いますか



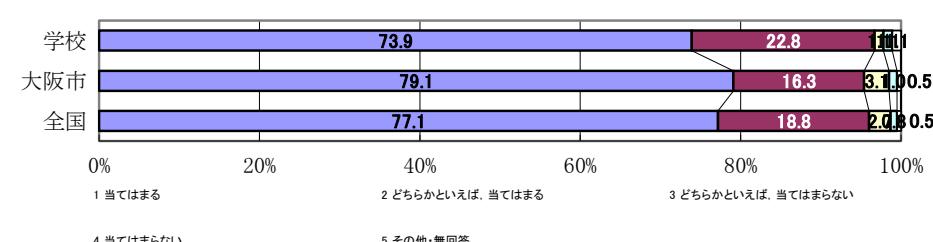
7

将来の夢や目標を持っていますか



9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

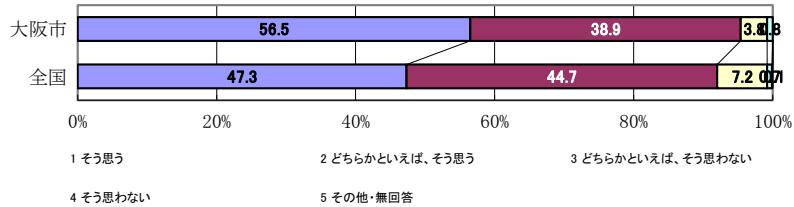
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち込んでいると思いますか

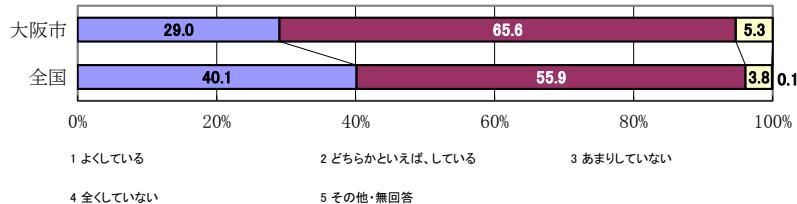
学校 「そう思う」を選択



15

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

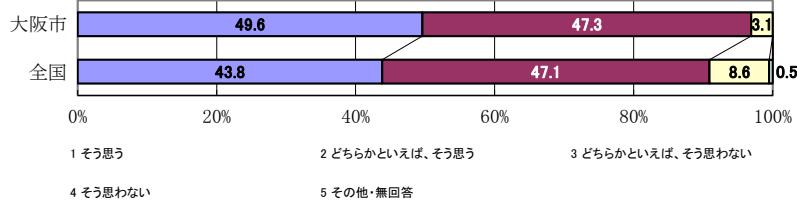
学校 「どちらかといえば、している」を選択



24

ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されているだと思いますか

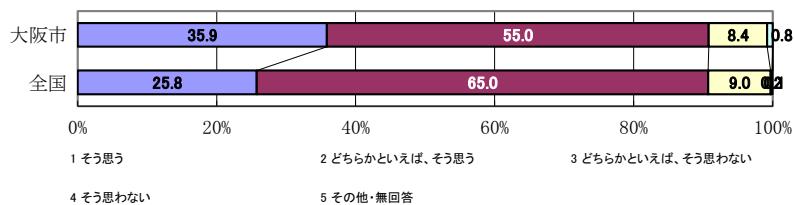
学校 「そう思う」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているだと思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

